

マレーシアの大学に留学し、世界へ羽ばたこう ～「マレーシア留学支援プログラム」～

最近の若者は内向き志向——こんなフレーズを耳にするようになって久しくなります。

文部科学省の調査では、日本人の海外留学人数は、2004年の8万2,945人をピークに減少の一途をたどり、09年には5万9,923人まで急落しました(*注)。留学に消極的な理由の一つとして、長引く景気低迷とそれに伴う就職難が指摘されています。先行き不透明な状況の中、目下の就職が気になり、世界を見て見聞を広げ、力を磨こうという気にならないうです。肩を落として歩くリクルートスーツ姿の学生とすれ違うにつれ、心の中で励ましの声を掛けたくもなります。

しかし、顔を上げて周囲を見渡せば、世界はもっと躍動感に満ちたダイナミックな舞台であることに気づくことでしょう。特にアジア諸国は、高い経済成長率をキープし、すでに世界経済において大きな存在感を示しています。国民の所得も向上し、個人消費も増大しています。バイタリティー溢れる魅力的な隣国があるのに、狭い日本で、就職活動のみに汲々とした学生生活を送ってはいもったいないことです。

自らの手で将来を切り開く実力を身につけた、たくましいグローバル人材の育成を後押しできればと、国際開発センターは今春、日本の高校生がマレーシアの大学に正規留学する道を支援するプログラムをスタートさせました。提携を進めるマレーシアの4つの大学への進学を考える方へ、コンサルテーション、願書作成、渡航手配、渡航後の進路相談、定期的なフォローアップ、緊急時

対応などの各種サポートを提供いたします。

マレーシアは、留学生受入数で世界第11位を誇る隠れた留学大国です。世界中から留学生が集まる背景には、数々の魅力が見え隠れします。



近代的なビルの際に伝統的なイスラム様式の建築が立ち並ぶ

- 多民族国家ならではの多様性や寛容性を理解し、グローバル人材に不可欠な国際感覚を体得する
- ビジネスに必須の実践的な英語力はもちろん、中国語やマレー語も習得できる
- 欧米型のハードな学習環境下で、現地の学生や各国からの留学生と議論を交わし、高度な学力とともに積極性やコミュニケーション力を磨く
- 世界の成長センターでともに学ぶ友人たちと、将来につながるグローバル人的ネットワークを構築する
- インターンシップを通じて、躍動感あるビジネスの現場に身を置き、自身のキャリアプランへのヒントを得る
- 多彩で柔軟なカリキュラムを利用し、3年間で大学を卒業する。または、提携する海外の大学に編入して、米英豪の学位を取得する
- 休暇には足を伸ばし、熱帯雨林、珍しい動物、サンゴ礁、美しいビーチといった自然の宝庫を満喫する

どれも、今の日本では得難い貴重なポイントです。

このように、魅力満載のマレーシア留学を進路の一つとして広く考えていただくため、2012年5月26日(土)に渋谷で「マレーシア留学フェア」を開催しました。また、8月には「マレーシア体験留学ツアー」を実施する予定です。当ツアーでは、提携を予定している4大学のキャンパスを実際に訪問して、大学関係者に話を聞き、模擬授業を受け、現地の学生や地元の方たちと交流することで、マレーシアの国や大学について、理解と関心を深めていただくことを目的としています。

当プログラムについて詳しくお知りになりたい方は、マレーシア留学サポート室 (<http://www.idcj.or.jp/studymalaysia/index.html>) まで、お気軽にお問い合わせください。

(文責：マレーシア留学サポート室)



多彩な民族が集まるマレーシアは人種のつばである

(*注)「日本人の海外留学人数」及び「外国人留学生在籍状況調査」並びに「外国人留学生の10月渡日状況」について 文部科学省報道発表 2012年1月20日